

## 経営学専攻 修士課程・昼間

### <理念・目的、教育目標>

企業経営に関する理論研究と実務的な応用研究の両輪をバランスよく発展させ、創造的研究を行う。

修士課程・昼間では、本学および国内外の他大学の学部卒業生を主たる対象とした研究者養成の教育を行う。少人数の本格的な基礎研究演習を中心とした教育を行い、優れた成果を上げられる国際職業人及び研究・教育職等の育成をめざす。

### < 2017年度開講科目 >

授 業 科 目	担当教員名	単位	掲載ページ	備 考
経営学原理	近 能 善 範	4	273	
人的資源管理特論	佐 野 哲	4	274	
経営戦略特論	李 瑞 雪	4	275	
国際経営特論	安 藤 直 紀	4	276	
マーケティング特論	横 山 斉 理	4	277	
財務会計特論	筒 井 知 彦	4	278	
管理会計特論	福 田 淳 児	4	279	
租税法	菊 谷 正 人	4	324	2017年度より夜間コースへ移行
ミクロ経済論	宮 澤 信 二 郎	4	280	
金融論	林 直 嗣	4	281	
産業組織論	大 木 良 子	4	282	
日本経済特論	蓮 見 亮	4	283	
統計学	豊 田 敬	4	284	
経営学演習	新 倉 貴 士	4	285	
経営学演習	李 瑞 雪	4	286	
経営学演習	西 川 英 彦	4	286	
経営学演習	安 藤 直 紀	4	287	
経営学演習	洞 口 治 夫	4	288	
経営学演習	近 能 善 範	4	289	

※主要研究業績については、最新のもののみ記載しています。

※法政大学大学院学則の授業科目一覧表に記載のある科目で、上記一覧表に記載のない科目は、2017年度休講です。

### <履修上の注意>

#### 1. 修了要件

2年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より30単位以上を選択履修し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格することが修了要件です。

※修了要件の大枠については、『大学院要項』25ページの修了要件も参照してください。

※論文執筆の手引きについては、294ページを参照してください。

#### 2. 修士課程・夜間、および他専攻設置科目の履修について

- (1) 本専攻の修士課程・夜間設置科目については16単位を上限として履修可能、かつ修了所要単位に含めることができます。
- (2) 他専攻設置科目及び他の大学院で修得した単位は、合計して10単位を上限として修了所要単位に含めることができます。
- (3) 留学生は、1年次に、国際日本学インスティテュート主催科目の「日本語論文作成演習Ⅰ、Ⅱ」または「日本語論文作成基礎AⅠ～AⅣ」または「日本語論文作成基礎BⅠ～BⅣ」を履修すること（履修科目についてはクラス分けテストにより決定されます）。

## 経営学原理

### 近能 善範

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学の大きな目的の一つは、「企業とは何か」、「企業の運営はどのような原理や原則に基づいて行われるのか」、「どうすれば企業の目標を達成することができるのか」、「どうすれば、他企業との競争の中で持続的に成功し続けることができるのか」、といった問題について考えることにあります。

この授業では、こうした企業に関わるさまざまな問題を考えていく上で不可欠な、組織論・戦略論の基本的な考え方や概念などを学んでいきます。

#### 【到達目標】

経営学（組織論・戦略論）の基礎的事項の習得

#### 【授業の進め方と方法】

この授業では、テキスト輪読とディスカッション、課題レポート提出を通じて学んでいきます。

#### 【授業計画】

##### 通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス
第2回	イントロダクション	経営学では何を学ぶのか、経営学を学ぶ意義、経営学の区分、企業とは何か
第3回	モチベーション (1)	モチベーションの「欲求説」(1)
第4回	モチベーション (2)	モチベーションの「欲求説」(2)
第5回	モチベーション (3)	モチベーションの「過程説」
第6回	グループ・ダイナミクス (1)	グループとは何か、その特性
第7回	グループ・ダイナミクス (2)	コミュニケーションとコンフリクト
第8回	人的ネットワーク (1)	社会的ネットワークの理論
第9回	人的ネットワーク (2)	「スモールワールド」のネットワーク
第10回	リーダーシップ (1)	伝統的なリーダーシップ論
第11回	リーダーシップ (2)	リーダーシップ論の新しい潮流
第12回	組織デザイン (1)	分業と統合
第13回	組織デザイン (2)	組織デザインの基本
第14回	組織デザイン (3)	主要な組織形態、その特徴
第15回	学習成果の確認	まとめと復習
第16回	ガイダンス	授業ガイダンス
第17回	組織学習と知識創造 (1)	個人学習のエラー、組織学習のエラー
第18回	組織学習と知識創造 (2)	知識創造のマネジメント
第19回	組織文化 (1)	組織文化とは何か、なぜ重要か
第20回	組織文化 (2)	組織文化の強化
第21回	組織文化 (3)	組織文化の変革
第22回	戦略論についてのイントロダクション	戦略論とは何か、戦略論の区分、戦略論の二つの視点
第23回	競争戦略 (1)	ポジショニング・アプローチの戦略論①（5つの競争要因分析）
第24回	競争戦略 (2)	ポジショニング・アプローチの戦略論②（三つの基本戦略）
第25回	競争戦略 (3)	ポジショニング・アプローチの戦略論③（市場地位別の戦略）
第26回	競争戦略 (4)	資源・能力アプローチの戦略論（RBV：Resourced-Based View of the Firm）
第27回	競争戦略 (5)	ダイナミック・アプローチの戦略論
第28回	全社戦略 (1)	全社戦略①（事業ポートフォリオ・マネジメント）
第29回	全社戦略 (2)	全社戦略②（ドメイン戦略）
第30回	学習成果の確認	まとめと復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、指定されたリーディング資料を必ず事前に読んでおくことが求められます。また、各回で発表の指名を受けた参加者は、内容を要約し解説を加えたレジュメを必ず事前に準備しておくことが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

主として、『経営学概論』についての教科書草稿（現在執筆中）を用いる予定です。

#### 【参考書】

榊原清則『経営学入門（上）』日経文庫（2002年）。

他は、講義の中で適宜指定します。

#### 【成績評価の方法と基準】

レジュメの正確さと完成度（25%）、出席＋ディスカッションへの参加状況（25%）、課題提出＋学習への意欲と姿勢（25%）、期末レポート成績（25%）を総合して評価します。

なお、期末レポートを期日までに提出しなかった場合、成績を「E」とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

リーディング資料の配布を、原則として法政大学授業支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

#### 【その他の重要事項】

詳細な授業計画については、初回の授業で解説します。履修希望者は、必ず出席するようにして下さい。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>

イノベーションと企業間関係

<主要業績（テキスト）>

『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）、新世社、2010年。

<主要研究業績 (1)>

“Enhancement of the advanced R&D cooperation between automakers and suppliers in the Japanese automobile industry,” *Annals of Business Administrative Science*, Vol.6, pp. 15-34, 2008.

<主要研究業績 (2)>

「日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化」、『一橋ビジネスレビュー』、54巻4号、2007年3月。

## 人的資源管理特論

佐野 哲

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していく。

取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人事異動、教育訓練、人事査定・賃金制度、労働時間管理、労使関係管理、人材の多様化管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などである。これらについて、主要な議論を把握するとともに、参加者は、そうした知見にてらしながら、メディアに取り上げられている情報から対応するケースを取りまとめ、その構造や課題について報告・議論する。

こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につける。

### 【到達目標】

- ①人事管理論の対象領域の広がりや基本的な考え方を知る。
- ②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
- ③そのうえで、日本企業における管理実態の特殊性を評価する。
- ④これらを踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。
- ⑤人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
- ⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

### 【授業の進め方と方法】

授業は、①人的資源管理に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題文献や事例の報告、それについてのディスカッションによる演習とを組み合わせて勤める予定です。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

### 【授業計画】

学年	テーマ	内容
春学期	イントロダクション： 1（講義への導入）	人的資源管理の諸機能を整理しつつ、日本企業の特長についてイメージする
	2-3 リクルート	日本型「新規学卒一括採用」システムとは何か？
	4-5 労働契約	従業員の所属意識と日本の労働法の乖離について理解する
	6-7 人事異動	定期的なローテーションの広がりや「出向」の増大
	8-9 教育訓練	OJTを中心とした企業内訓練と公的な職業教育
	10-11 賃金制度	年功賃金と職務給・職能給はどのように定着したのか？
	12-13 人事査定	能力主義・成果主義導入の理想と現実
	14-15 リストラ	日本企業における解雇の実態（人事のリストラチャリング）と日本の「整理解雇法理」
秋学期	プレゼンテーション： 1（講義への再導入）	春学期のテーマから一つを選び、自ら研究課題を設定し発表、相互に議論する
	2-3 労働時間	日本企業における長時間労働の背景を探る
	4-5 ワークライフバランス	女性労働の保護規制から「仕事と生活の両立」支援へ
	6-7 労働組合	団体交渉・春闘の時代から「コミュニティユニオン」へ
	8-9 リタイア	定年・退職金・企業年金制度と高齢者の再雇用
	10-11 国際化	日本の外国人労働者と研修・技能実習制度の特殊性
	12-13 非正規化	「臨時工」から「主婦パート」、そして「フリーター」へ
	14-15 規制緩和	日本における規制緩和と政策の過去・現在・未来（労働者派遣と管理職の働きかたを中心に）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの中の該当部分について事前に熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。

また、各回で発表の指名を受けた参加者は、指定されたテキストの範囲について、内容を要約し解説を加えたレジュメを作成しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

- ①今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門』日本経済新聞社
- ②濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日本経済新聞社（日経文庫）

### 【参考書】

特に指定しない。各回のテーマに関連する情報を、インターネット等によって検索・収集し、取りまとめること。

### 【成績評価の方法と基準】

文献・事例の報告（30点）、議論への参加（30点）、レポート（40点）。なお、報告の担当回での報告内容とそれに関する参加者との議論の内容、積極度を評価する。また、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらう。以上を総合して、最終的な評価を判定する。

### 【学生の意見等からの気づき】

今年度からの開講のため、特記事項なし。

### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>労働市場論、経営社会学
- <研究テーマ>労働需給調整システム、公的職業紹介制度、雇用と労働の規制緩和、外国人受け入れ政策など。
- <近年の主な業績（講義関連分野のみ）>
  - ①「外国人建設労働者は、どこからきて、どこへ行くのか」『建築雑誌』日本建築学会 2016年1月
  - ②「直接投資と日本への国際労働移動」『国際問題』日本国際問題研究所 2013年11月
  - ③「民間活力を活かしたハローワーク改革のあり方」『経営志林』法政大学経営学会 2011年9月
  - ④「人材紹介業のビジネスモデルと労働市場」『経営志林』法政大学経営学会 2009年10月
  - ⑤「医療分野における労働需給調整事業のあり方に関する一考察」『病院』医学書院 2006年9月
  - ⑥「人材ビジネスと新卒労働市場」『日本労働研究雑誌』日本労働研究機構 2005年9月

経営戦略特論

李 瑞雪

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経営戦略の全社戦略と事業戦略（競争戦略）に関する概論的レビューを行ったうえで、企業におけるロジスティクス戦略、サプライチェーンマネジメント戦略に焦点を当てて検討する。具体的には、ロジスティクスの役割、サプライチェーンのマネジメント手法、ロジスティクスシステムの構成要素、ロジスティクスシステムのパフォーマンスの評価基準などについて学習する。

【到達目標】

企業の重要な機能戦略の一つであるロジスティクス戦略に対する基礎的な分析力、問題解決力を養うことを目標とする。

【授業の進め方と方法】

春学期では、テキスト輪読を通じて、ロジスティクスとサプライチェーンマネジメントの基礎理論を学ぶ。秋学期では、具体的なケーススタディ（企業のロジスティクス取り組みなど）に基づいて、ディスカッションを行う。この中で、基礎理論に対する理解を深めていくとともに、自らの問題関心の形成に繋げていくことが望まれる。

【授業計画】

通年	テーマ	内容
1-2	Logistics, the supply chain and competitive advantage	ロジスティクス、サプライチェーンと競争優位
3-4	Logistics and customer value	ロジスティクスと顧客価値
5-6	Measuring logistics costs and performance	ロジスティクス・コストとロジスティクス・パフォーマンスの測定・評価
7-8	Creating the responsive supply chain	高反応性のサプライチェーンの構築
9-10	Strategic lead-time management	戦略的リードタイム管理
11-12	The synchronous supply chain	サプライチェーンの同期化
13-14	Managing the global pipeline	グローバル・サプライチェーンの管理
15	春学期内容の復習とテスト	春学期内容の復習とテスト
16-17	Overcoming the barriers to supply chain integration	サプライチェーン統合の障害を克服する
18-19	Case study 1-3	授業中にケースを配布する
20-21	Case study 4-6	授業中にケースを配布する
22-23	Case study 7-9	授業中にケースを配布する
24-25	Case study 10-11	授業中にケースを配布する
26-27	Case study 12-14	授業中にケースを配布する
28-30	Discussion	ディスカッション、総括、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたリーディングを必ず事前に読んでおくこと。割り当てられた担当部分について必ず事前にレジュメを準備しておくこと。

【テキスト（教科書）】

- (1) Logistics and Supply Chain Management, Creating Value-Adding Networks, 3rd edition, Martin Christopher, FT, ISBN 0273681761。(2) Global Cases in Logistics and Supply Chain Management, Edited by David H Taylor, THOMSON, ISBN 1861523855
- (3) 戦略サファリ、第2版、ヘンリー・ミンツバーグ他著、東洋経済新聞社

【参考書】

必要に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメの正確さと完成度 (30%)、ディスカッションへの参加状況 (20%)、学習の意欲と姿勢 (20%)、テスト成績 (30%) を総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論
- <研究テーマ>新興国市場におけるロジスティクス戦略、中国物流産業の高度化など
- <主要研究業績>
- ①『中国物流産業論—高度化の軌跡とメカニズム—』白桃書房、2014年。
- ②『日本企業物流と供給管理事例精選』中国財富出版社、2013年。
- ③「ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察」『経営志林』(ISSN 0287-0975) 第49巻 第4号,pp.29-47.
- ④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観することがこの授業の概要である。学生は、国際企業戦略における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学ぶ。

【到達目標】

学生は、国際企業戦略における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深める。また、国際企業戦略の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになる。さらに、国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになる。

【授業の進め方と方法】

はじめに、社会科学の研究方法を概観する。そのあと、国際企業戦略における主要な研究分野を概観していく。同時に、各研究分野を理解するために必要な理論も習得する。授業では、重要な項目の講義の後、講義内容に関連する論文やケースを読み、議論を行う。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究手法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory(1)	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	Studies on the environment of international business	制度的環境に関する研究事例の検討
8	FDI	FDI を説明する理論の検討
9	Strategies of MNCs	多国籍企業の戦略類型の検討
10	DMNC	新興国を本国とする多国籍企業の検討
11	Studies on strategies of MNCs	多国籍企業の戦略に関する研究事例の検討
12	Internationalization and the performance of MNCs	多国籍企業の国際化の程度とパフォーマンスとの関係に関する検討
13	Regional diversification	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
14	Entry mode(1)	参入方式の種類の検討
15	Entry mode(2)	参入方式の効果の検討
16	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
17	Isomorphism	多国籍企業の同型化の検討
18	Institutional theory(2)	Isomorphism と legitimacy の検討
19	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
20	Agency theory	Agency theory の検討
21	Language barriers	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
22	Localization(1)	海外子会社の現地化の検討
23	Localization(2)	現地化の効果の検討
24	Studies on International HRM	多国籍企業の人材戦略に関する研究事例の検討
25	International alliance(1)	国際戦略的提携の検討
26	International alliance(2)	Joint ventures の検討
27	Studies on international alliances	国際戦略的提携に関する研究事例の検討

28	Presentation(1)	ターム・ペーパーのプレゼンテーション (1)
29	Presentation(2)	ターム・ペーパーのプレゼンテーション (2)
30	Wrap-up	これまでの議論の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1 回 学部で学習したことを復習する
- 2 回 社会科学の方法論に関して調査する
- 3,4 回 多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
- 5 回 Institutional theory に関して調査する
- 6 回 多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
- 7 回 制度的環境の多国籍企業への影響に関する論文を読む
- 8 回 FDI の理論に関して調査する
- 9 回 多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
- 10 回 新興国を本国とする多国籍企業に関して調査する
- 11 回 多国籍企業の戦略に関する論文を読む
- 12 回 国際化の程度が多国籍企業の業績に与える影響を調査する
- 13 回 多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
- 14,15 回 エントリー・モードに関して調査する
- 16 回 Transaction cost theory に関して調査する
- 17 回 多国籍企業の同型化に関して調査する
- 18 回 Isomorphism と legitimacy に関して調査する
- 19 回 国際人材戦略に関して調査する
- 20 回 Agency theory に関して調査する
- 21 回 多国籍企業における言語の役割に関して調査する
- 22,23 回 人材の現地化に関して調査する
- 24 回 国際人材戦略に関する論文を読む
- 25,26 回 国際戦略的提携に関して調査する
- 27 回 国際戦略的提携に関する論文を読む
- 28,29 回 ターム・ペーパーを準備する
- 30 回 2 回から 27 回までの議論をレビューする

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

Selected articles を使用するが、詳細は開講時に指示する。

【参考書】

- Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R. 2008. *International Business: The New Realities* (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
- Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. *Multinational Management: A Strategic Approach* (4th ed.). Thomson South-Western: OH.
- Rugman, A.M. & Collinson, S. 2012. *International Business* (6th ed.). Pearson: England.
- Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. *International Business* (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】

配分：クラスへのコントリビューション (70%)、ターム・ペーパー (30%)  
 評価基準：クラスへのコントリビューションについては、クラスにおける発表やディスカッションへの参加等を評価する。ターム・ペーパーについては講義の中で指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理論で説明されるケースをより多く紹介する。  
 ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やす。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際企業戦略

<研究テーマ>

海外子会社の経営戦略、新興経済での多国籍企業の経営戦略

<主要研究業績>

- ① Similarity to successful peers and the implications for subsidiary performance. *Asian Business & Management*, 2016, 15(2): 110-136.
- ② The effect of localization on subsidiary performance in Japanese multinational corporations. *International Journal of Human Resource Management*, 2014, 25 (14): 1995-2012.
- ③ Institutional distance, host country and international business experience, and the use of parent country nationals. *Human Resource Management Journal*, 2013, 23(1): 52-71 (with Paik, Y.).

## マーケティング特論

横山 斉理

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマーケティング論の基礎的な理論や分析枠組み・概念を幅広く学びます。

### 【到達目標】

受講生は、この講義を受講することで、マーケティング関連の研究を進める上で必要となる基本的な知識を深く理解することができます。理論や分析枠組み・概念を「知っている」だけにとどまらず、それらを自分の言葉で他人に説明できる状態になります。

### 【授業の進め方と方法】

レクチャーとディスカッションで構成されます。冒頭 30 分程度で教員がレクチャーを行い、残り時間でディスカッションを行います。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：マーケティング論の基本	授業の進め方のオリエンテーションとマーケティング発想の基本について学びます
第 2 回	消費者の行動	「顧客の理解」パート①として消費者の行動について学びます
第 3 回	購買意思決定の影響要因	「顧客の理解」パート②として購買意思決定の影響要因について学びます
第 4 回	組織購買行動	「顧客の理解」パート③として組織購買行動について学びます
第 5 回	マーケティング・リサーチ	「顧客の理解」パート④としてマーケティング・リサーチについて学びます
第 6 回	経営環境の把握	「マーケティング政策の立案」パート①として経営環境を把握するための分析枠組みについて学びます
第 7 回	セグメンテーションとターゲティング	「マーケティング政策の立案」パート②としてセグメンテーションとターゲティングについて学びます
第 8 回	ポジショニング	「マーケティング政策の立案」パート③としてポジショニングについて学びます。
第 9 回	製品と製品ミックス	「製品政策」パート①として製品と製品ミックスについて学びます
第 10 回	新製品開発	「製品政策」パート②として新製品開発について学びます
第 11 回	ブランド	「製品政策」パート③としてブランドについて学びます
第 12 回	価格の設定	「価格政策」パート①として価格の設定について学びます
第 13 回	戦略的価格	「価格政策」パート②として戦略的価格について学びます
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容のマーケティング論における位置づけを確認します
第 15 回	振り返り	これまでの授業のまとめと振り返りを行い知識の定着を図ります
第 16 回	コミュニケーション	「プロモーション政策」パート①としてコミュニケーションについて学びます
第 17 回	広告	「プロモーション政策」パート②として広告について学びます
第 18 回	販売促進・パブリシティ・人的販売	「プロモーション政策」パート③として販売促進・パブリシティ・人的販売について学びます
第 19 回	マーケティング・チャネル	「流通政策」パート①としてマーケティング・チャネルについて学びます
第 20 回	メーカーと流通	「流通政策」パート②としてメーカーと流通について学びます
第 21 回	基本戦略と市場地位別戦略	「マーケティング政策の統合」パート①として基本戦略と市場地位別戦略について学びます

第 22 回	製品ライフサイクル	「マーケティング政策の統合」パート②として製品ライフサイクルについて学びます
第 23 回	コア・コンピタンスと知識創造	「マーケティング・リソース戦略」パート①としてコア・コンピタンスと知識創造について学びます
第 24 回	関係性マーケティング	「マーケティング・リソース戦略」パート②として関係性マーケティングについて学びます
第 25 回	ブランディング	「マーケティング・リソース戦略」パート③としてブランディングについて学びます
第 26 回	市場志向型組織	「マーケティング・リソース戦略」パート④として市場志向型組織について学びます
第 27 回	マーケティングの過去	「マーケティング理論の変遷」パート①としてマーケティングの過去について学びます
第 28 回	マーケティングの未来	「マーケティング理論の変遷」パート②としてマーケティングの未来について学びます
第 29 回	まとめ	これまでの授業内容のマーケティング論における位置づけを確認します
第 30 回	振り返り	これまでの授業のまとめと振り返りを行い知識の定着を図ります

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの当該箇所を読んだ上でショートケースの課題について自分の意見をまとめておくことが求められます（A4 用紙 1 枚にまとめて毎回提出）。

### 【テキスト（教科書）】

黒岩健一郎・水越康介 (2012) 『マーケティングをつかむ』 有斐閣

### 【参考書】

適宜、指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回提出する課題 = 70%  
討議への積極的な参加 = 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

討議に積極的に参加できるようにするため、該当箇所を熟読して事前課題をこなした上で授業に臨んでください。受講生の事前準備の状況が討議のクオリティ、すなわち授業のクオリティに大きく影響します。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜、指示します。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 流通・マーケティング  
<研究テーマ> 日本の小売構造の動態  
<主要研究業績>

横山斉理・尾形真実哉 (2018) 「マルチレベル分析を用いた店頭従業員の能力獲得に関する実証研究」、『組織科学』（組織学会）、近刊

横山斉理 (2015) 「食品スーパーの顧客満足度を規定する要因に関する経験的研究」、『流通研究』（日本商業学会）、21-36 頁

横山斉理 (2014) 「チェーン小売企業の実証分析におけるマルチレベル分析の適用～一般線形モデル (GLM) と階層線形モデル (HLM) の比較～」、『日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス 2014 プロシーディングス』、207-209 頁

Yokoyama, N., & D.H. Ryu, "The characteristics of Japanese small and medium-sized retailers' business succession", Proceedings of the 7th Oxford Asia Retail Conference: The Impact of Retailing in Emerging and Mature Markets, 2014, pp.1-18

他、多数。

## 財務会計特論

筒井 知彦

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計のトピックについて学習します。それぞれの基準について、その設定プロセスをトレースすることにより、基準の理論的根拠を把握します。

### 【到達目標】

- ①財務会計の主要なトピックについて論点を把握すること
- ②いくつかの基準について設定プロセスを把握すること
- ③基準の理論的根拠を検討するため議論すること

### 【授業の進め方と方法】

講義と受講生の報告をミックスして行います。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財務会計の学習について
第2回	概念フレームワーク 1	概念フレームワークに関する文献講読： IFRS
第3回	概念フレームワーク 2	概念フレームワークに関する文献講読： 日本
第4回	概念フレームワーク 3	概念フレームワークの論点整理
第5回	利益計算の方法 1	資産負債アプローチに関する文献講読
第6回	利益計算の方法 2	収益費用アプローチに関する文献講読
第7回	利益計算の方法 3	資産負債アプローチと収益費用アプローチの論点整理
第8回	資産評価の基準 1	取得原価に関する文献講読
第9回	資産評価の基準 2	時価、公正価値に関する文献講読
第10回	資産評価の基準 3	取得原価、時価、公正価値の論点整理
第11回	費用配分の方法 1	棚卸資産に関する文献講読
第12回	費用配分の方法 2	棚卸資産の論点整理
第13回	費用配分の方法 3	固定資産に関する文献講読
第14回	費用配分の方法 4	固定資産の論点整理
第15回	まとめと復習	論点を整理することにより、修士論文の作成につなげる
第16回	費用配分の方法 5	繰延資産に関する文献講読
第17回	費用配分の方法 6	繰延資産の論点整理
第18回	資産評価の方法 1	金融資産に関する文献講読
第19回	資産評価の方法 2	金融資産の論点整理
第20回	資産評価の方法 3	固定資産の減損に関する文献講読
第21回	資産評価の方法 4	固定資産の減損の論点整理
第22回	負債の評価 1	退職給付に関する文献講読
第23回	負債の評価 2	退職給付の論点整理
第24回	負債の評価 3	引当金に関する文献講読
第25回	負債の評価 4	引当金の論点整理
第26回	M&Aの処理 1	M&Aの評価方法に関する文献講読
第27回	M&Aの処理 2	M&Aの評価方法の論点整理
第28回	純資産 1	包括利益、クリーンサープラスに関する文献講読
第29回	純資産 2	包括利益、クリーンサープラスの論点整理
第30回	まとめと復習	論点を整理することにより、修士論文の作成につなげる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布された文献を事前に読んで、担当箇所のレジュメを作成する。

### 【テキスト（教科書）】

佐藤信彦他『財務会計論Ⅱ応用論点編 第4版』

### 【参考書】

桜井久勝『財務会計講義 第17版』2016年 中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

試験 50%、発表点 30%、レポート 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義の進行スピードを調整します。

### 【その他の重要事項】

本講義は法政大学経営学研究科の在校生を対象としています。2年次の修士論文作成につながるものと位置付けており、他大学の学生の受講は想定していません。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財務会計論

<研究テーマ>

資産評価論

<主要研究業績>

「財務諸表分析」菊谷正人編著『財務会計通論』2009年

「収益の測定」日本証券アナリスト協会

2009年

「企業分析入門」（共訳）2001年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部レベルで管理会計の基礎的な知識に基づいて、予算、インセンティブ・システムの設計、ABC など多様な研究テーマについての発展的な管理会計の議論について学習します。この学習を通じて、管理会計の学術的な研究論文を読むさいの力を養うとともにいくつかの最新の研究をレビューすることで管理界研究の現在の動向を理解することを目的とします。

【到達目標】

最終的には管理会計に関する学術論文を独力で読み、その内容を理解し批評する力をつけることを目指します。このために、論文を読み理解する上で必要な管理会計またその関連領域の概念や分析手法を理解することを目標とします。また実際にいくつかの学術論文をレビューすることで近年の管理会計研究の展開を理解することを目標とします。

【授業の進め方と方法】

講義は、テキストを輪読する形で行ないます。毎回、報告者がテキストの該当箇所または指定された論文について報告を行い、その内容について教員が補足説明を行なうとともに、受講者全員で議論を行ないます。

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	会計学の二つの領域である管理会計と財務会計の相違点について説明する。さらに、この講義で扱う各テーマ、またテーマ間の関係について簡単な概略的な説明を行なう。
2	原価態様の分析	テキストの第 1 章に基づいて、管理会計の役割および原価態様の分析について議論を行なう。
3	予算管理	テキストの第 2 章に基づいて、予算管理の一連の手続きについての議論を行なう。
4	近年の予算管理研究の方向性	予算に関する比較的最近の論文をいくつか読むことで、近年の予算管理研究の動向について議論する。
5	伝統的な原価計算	テキスト第 3 章の議論に基づいて、伝統的な間接費の配賦方法の問題点また限界を明らかにする。
6	Activity-Based Costing	テキスト第 4 章に基づいて、ABC についてアクティビティ・コストドライバーの選択および最適な ABC システム設計について議論する。
7	Activity-Based Management	テキスト第 5 章に基づいて、ABC から得られた情報を原価管理および顧客収益性の分析に利用する方法について議論する。
8	原価管理	テキスト第 6 章に基づいて、原価企画、原価改善およびライフサイクル・コストイングなどについて議論する。
9	原価管理の実務	原価企画などの実務での適用またその問題点を論文に基づいて議論する。
10	分権化	テキスト第 7 章に基づいて、分権的な組織の特徴について議論するとともに、それらの組織単位および組織単位の責任者の業績評価のための指標について議論する。
11	分権化の実際	日本企業における分権化の実状とそこで生じる問題点をいくつかの論文に基づいて議論する。
12	バランスド・スコアカード	テキスト第 8 章に基づいて、BSC の概念を中心に、非財務的な指標および財務的な指標との関係性について、これまでの研究成果を交え説明する。
13	バランスド・スコアカードに関する論文	BSC に関する管理会計研究での論文を輪読し、議論を行なう。
14	バランス・スコアカードのケース	BSC 採用企業のケースを取り上げ、実務での BSC の適用について議論する。
15	前半のまとめ	ここまでの議論を振り返ると共に、議論の整理を行なう。
16	財務的な業績尺度	テキスト第 9 章に基づいて財務的な業績尺度の特徴について議論を行なう。
17	ROI および EVA	テキスト第 10 章に基づいて ROI および EVA についてその理論的な背景について議論する。
18	EVA に関する論文のレビュー	EVA をはじめとする業績評価指標の利点とその問題点についていくつかの論文をレビューし議論を行なう。
19	財務的な業績尺度に関わるケースの輪読	企業における財務的な業績尺度の利用に関するケースを輪読する。

20	顧客、内部ビジネスプロセスおよび従業員の業績	テキスト第 11 章に基づいて、顧客の視点、内部ビジネスプロセスの視点および従業員のケイパビリティに関する測定やその問題点を議論する。
21	非財務的な業績尺度に関する研究の輪読	非財務的な業績尺度またそれと財務的な業績尺度との関係を取り扱った論文をレビューする。
22	設備投資の問題	設備投資の基本的な経済性計算について議論する。
23	新しい技術また組織ケイパビリティへの投資	テキストの第 12 章に基づいて新技術や組織のケイパビリティへの投資の問題を議論する。
24	新しい技術投資や組織ケイパビリティへの投資に関する論文の輪読	新しい技術への投資や組織のケイパビリティへの投資の問題を扱った論文をレビューする。
25	報酬システムの設計とそれが与える影響	報酬システムの設計とそれが企業の構成員の行動に与える影響を理解する。
26	報酬システムの設計に関する議論の基礎的な理論	報酬システムの設計に関する問題を論じる際に必要なエージェンシー理論また心理学的な基礎についての議論を行なう。
27	近年の報酬システムの設計についての論文のレビュー	いくつかの論文を紹介し、近年の報酬システムの設計についての研究の動向について議論する。
28	予算やインセンティブ計画のモデル	テキスト第 14 章に基づいて公式的なインセンティブモデルおよびそれに関わる情報の問題を議論する。
29	インセンティブモデルについての論文の輪読	インセンティブモデルに基づいた論文のいくつかをレビューする。
30	全体の総括	今回の講義で扱った管理会計のトピックについて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、報告者に限らずテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。その上で、理解できない箇所については学部レベルのテキストなどに基づいて検討しておくこと。また、講義の中で配布した論文またケースについては必ず事前に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

Kaplan, R.S., A.A. Atkinson. 2014. Advanced Management Accounting 3 ed., Essex, Pearson Education Limited.

【参考書】

日本語の文献としてはたとえば櫻井通晴 2015 年『管理会計第 6 版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】

講義での報告担当箇所の内容に基づく評価 30 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 50 点で評価を行います。講義中の議論への参加は積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけインターアクティブな講義を心がけます。

【その他の重要事項】

学部レベルの管理会計を履修していることが前提です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 管理会計論  
<研究テーマ> マネジメント・コントロール・システムと組織学習  
<主要研究業績>

- ①「事業部間での業績の比較可能性と知識移転の頻度」『企業価値向上の戦略』（2013 年、税務経理協会、企業価値評価研究会編に所収）。
- ②「企業の製品・市場戦略の変更と管理会計担当者の役割」『原価計算研究』第 34 号、2010 年。
- ③「日本企業における管理会計担当者の役割と組織業績への貢献の知覚」『会計プロGRESS』、第 10 号、2009 年。

# ミクロ経済論

宮澤 信二郎

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け、問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

## 【到達目標】

以下のような事項について理解し、応用できるようになる。

- (1) 消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
- (2) 企業は何をどれだけ使って、何をどれだけ販売しようとするか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
- (3) モノの値段がどのように決まるのか。また、その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすか。
- (4) 短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
- (5) 人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいか。

## 【授業の進め方と方法】

基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には、聴くだけにならないようにするため、考えるきっかけを与えたり、理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には、各自が自ら考える時間を確保するとともに、必要に応じて、正解に導くような助言を与える。

## 【授業計画】

### 通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後これを学ぶ意義について議論する。
第2回	需要・供給と市場均衡 (1)	教科書 4 章に基づいて、需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第3回	需要・供給と市場均衡 (2)	教科書 5 章に基づいて、価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。
第4回	問題演習 1	第 2 回と第 3 回の内容に関する問題演習を行います。
第5回	消費者の理論 (1)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の基礎について学びます。
第6回	消費者の理論 (2)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の応用について学びます。
第7回	問題演習 2	第 5 回と第 6 回の内容に関する問題演習を行います。
第8回	小テスト 1	ここまでの内容に関する小テストを行います。
第9回	生産者の理論 (1)	教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。
第10回	生産者の理論 (2)	引き続き、教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。
第11回	問題演習 3	第 9 回と第 10 回の内容に関する問題演習を行います。
第12回	生産者の理論 (3)	教科書 14 章に基づいて、競争市場における企業の生産量決定について学びます。
第13回	生産要素市場	教科書 18 章に基づいて、労働・資本・土地といった生産要素の市場取引について学びます。
第14回	問題演習 4	第 12 回と第 13 回の内容に関する問題演習を行います。
第15回	小テスト 2	ここまでの内容に関する小テストを行います。
第16回	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の内容の復習をするとともに、秋学期に扱う内容について概観します。
第17回	効率性と市場の失敗	教科書 7 章に基づき、取引内容の望ましさの指標として、余剰という概念を学びます。更に、市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうでない場合について学びます。
第18回	外部性	教科書 10 章に基づいて、取引が当事者以外の経済主体の利害に影響を及ぼすときの取引内容に関して学びます。
第19回	情報の非対称性	教科書 22 章を参照しつつ、当事者間で情報量が異なる場合に起こる問題とそれに対する対応策について学びます。

第 20 回 問題演習 5

第 21 回 独占

第 22 回 独占的競争

第 23 回 問題演習 6

第 24 回 小テスト 3

第 25 回 寡占・ゲーム理論 (1)

第 26 回 寡占・ゲーム理論 (2)

第 27 回 寡占・ゲーム理論 (3)

第 28 回 問題演習 6

第 29 回 まとめ

第 30 回 小テスト 4

第 17 回から第 19 回の内容に関する問題演習を行います。  
教科書 15 章に基づき、独占企業の生産量決定について学びます。  
教科書 16 章に基づき、各企業が違いのある製品を生産している場合の企業行動について学びます。  
第 21 回と第 22 回の内容に関する問題演習を行います。  
ここまでの内容に関する小テストを行います。  
教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。また、このような市場における企業行動を分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。  
引き続き、教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動と、それを分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。  
ゲーム理論について更に学びます。  
第 25 回から第 27 回までの内容に関する問題演習を行います。  
授業全体を振り返るとともに、今後の学習に関して考えます。  
ここまでの内容に関する小テストを行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に以下のテキストを読んでもらうことが求められる。また、毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められる。

## 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを使用する予定である。ただし、受講者が求める場合には、もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。  
マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2013年（あるいはその原著）

## 【参考書】

- [1] 伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣、2012年
  - [2] 安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年
  - [3] 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009年
  - [4] 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年
- \* [1] と [2] は上記の教科書よりも易しいテキスト、[3] と [4] は上記教科書よりも難しいテキストで、易しい順になっています。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加・貢献）30%、宿題・問題演習 30%、小テスト 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

初めて担当する科目ですので、この科目についてのアンケートは行っていませんが、夜間の修士課程や通信教育課程の同等科目を担当した経験を踏まえて、少し易しめの内容で実施することを想定しています。ただし、受講者の要望によっては、より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用ミクロ経済学（特に、企業金融論、産業組織論）

<研究テーマ> 企業金融と市場競争の相互作用に関する研究

<主要研究業績>

- [1] 「企業間信用に関する一考察—銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して—」経営志林、近刊
- [2] 「EU 国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013.
- [3] 「公的金融と市場競争—産業組織論アプローチ—」ファイナンシャル・レビュー 133, 147-168 2013.
- [4] "Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them," Journal of The Japanese and International Economies 26, 434-453 2012.
- [5] 「国家賠償と求償に関する経済分析」, 社会科学研究 第 62 巻 第 2 号, 55 - 79 頁, 2011 年.
- [6] 「偏波弁済の許害行為取消しに関する分析—法と経済学の視点から—」（藤澤治奈氏との共著）, 新世代法政策学研究 第 10 号, 351 - 369 頁 (担当部分), 2011 年. (倒産・再生法制研究奨励金賞 (トリプルアイ・高木賞) (奨励賞) (財団法人民事紛争処理研究基金) 受賞)
- [7] 「情報財の価格差別と著作権保護」, 知的財産法政策学研究 第 24 号, 229-257 頁, 2009 年.
- [8] "Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm," Economics Bulletin 12, 1-8, 2008.

## 金融論

林 直嗣

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度の研究テーマは、金融市場と金融政策の理論と実証である。経済学特にマクロ経済学の基礎的な理解に基づき、金融市場や金融政策のさまざまな問題を理論的に分析し、それに基づいて実証分析ができることを目標として指導する。英文及び邦文の有力な学術論文や最新の研究論文を熟読しながら、まず理論的な理解を深め、その上で実証的な分析を研究する。

### 【到達目標】

第一の到達目標は、金融の事実や知識を確実に修得し、日常生活に有効に活用できるようになることである。

第二の到達目標は、事実としての金融現象の背後にある経済法則や経済理論を学び、それを金融分析に活用できることである。

第三の到達目標は、こうした存在（Sein）に関わる事実判断の知識を有効に活用し、当為（Sollen）に関わる価値判断、すなわちどうするべきかという政策的判断力を錬成することである。

### 【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って、現代の金融市場や金融政策の諸問題を理論的に究明し、実証的な分析を行う。

授業の方法は輪読形式とし、院生が順番に報告をし、それについて議論や指導を行う。教室では板書を利用するとともに、PCを利用してプレゼンテーション用教材（PowerPoint による教材）や関連するサイトをスクリーンに投影して学習効果を高める。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	年間の授業計画の説明と報告者の決定
第 2 回	金融政策の政策目標と運営目標	金融政策の政策目標と運営目標
第 3 回	金融政策の政策目標と運営目標	金融政策の政策目標と運営目標
第 4 回	金融政策の効果波及経路と因果検定	金融政策の効果波及経路と因果検定
第 5 回	金融政策の効果波及経路と因果検定	金融政策の効果波及経路と因果検定
第 6 回	貨幣需要関数の理論と計測	貨幣需要関数の理論と計測
第 7 回	貨幣需要関数の理論と計測	貨幣需要関数の理論と計測
第 8 回	貨幣需要関数の安定性と金融政策	貨幣需要関数の安定性と金融政策
第 9 回	貨幣需要関数の安定性と金融政策	貨幣需要関数の安定性と金融政策
第 10 回	利子率の決定と金融政策	利子率の決定と金融政策
第 11 回	利子率の決定と金融政策	利子率の決定と金融政策
第 12 回	自然失業率仮説と合理的期待	自然失業率仮説と合理的期待
第 13 回	自然失業率仮説と合理的期待	自然失業率仮説と合理的期待
第 14 回	最適金融政策	最適金融政策
第 15 回	最適金融政策	最適金融政策
第 16 回	裁量政策対ルールによる政策	裁量政策対ルールによる政策
第 17 回	裁量政策対ルールによる政策	裁量政策対ルールによる政策
第 18 回	為替レートの決定と為替政策	為替レートの決定と為替政策
第 19 回	為替レートの決定と為替政策	為替レートの決定と為替政策
第 20 回	ゼロ金利政策	ゼロ金利政策
第 21 回	量的金融緩和	量的金融緩和
第 22 回	マイナス金利政策	マイナス金利政策
第 23 回	日本の金融市場と金融政策	日本の金融市場と金融政策

第 24 回 日本の金融市場と金融政策 日本の金融市場と金融政策

第 25 回 アジアの金融市場と金融政策 アジアの金融市場と金融政策

第 26 回 アジアの金融市場と金融政策 アジアの金融市場と金融政策

第 27 回 アメリカの金融市場と金融政策 アメリカの金融市場と金融政策

第 28 回 アメリカの金融市場と金融政策 アメリカの金融市場と金融政策

第 29 回 ヨーロッパの金融市場と金融政策 ヨーロッパの金融市場と金融政策

第 30 回 まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。まず自分で文献や教科書を読み、要約をパワーポイントのスライドにまとめてみよう。何が理解できて何がわからないか、はっきりするので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、授業の理解を効果的に高めることができる。

### 【テキスト（教科書）】

開講時に文献リストを配布する。

### 【参考書】

開講時に文献リストを配布する。

### 【成績評価の方法と基準】

出席、論文の読解・発表、討論への参加などを総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書やノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>金融論、理論経済学、応用計量経済学、経済政策

<研究テーマ>金融と経済の理論的・実証的・政策的な研究

<主要研究業績>以下を参照。

<http://www.i.hosei.ac.jp/~hayashi/sub5.htm>

## 産業組織論

大木 良子

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学とゲーム理論から、企業行動や企業間のインタラクションを分析するために有効なツールを紹介する。ミクロ経済学で最初に学習する「完全競争」の概念から離れ、より現実的で複雑な市場における競争を分析し、それらが消費者や経済全体に与える影響を明らかにする。加えて、市場の競争に対する政策（競争政策）への示唆を導く。産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論的分析結果と現実との一致や相違点を参加者で議論し、経営学など隣接分野とのリンクをはかる。

### 【到達目標】

1. 産業組織論の理論的基礎を体系的に理解すること。またその知識を活用して英語で書かれたものを含めた、応用的な文献を理解できるようになること
2. 学んだ理論を使って、現実の企業の行動を自らの言葉で説明し、経済学的な視点で評価することができるようになること

### 【授業の進め方と方法】

講義の進め方としては、教員が日本語テキストを用いてレクチャーを行った後、そのトピックに関連する専門書（英語文献を含む）を輪読する。報告者は、レジュメを作成し、要点を整理する。報告者はわからない点があっても全く問題ないが、どこがどのようにわからないのかをはっきりさせ、報告の際に触れること。報告者以外は、予習の上、報告者への質問を考え、授業の最初に教員に提出する。中間・期末試験はレクチャーの内容を中心に、問題を解くことによる理論の習熟度を確認することに重点をおく。報告では、要点を整理する力と理論的結論を解釈する力を評価する。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	クールノー競争レクチャー 1	寡占市場の具体例：数量競争・価格競争 ゲーム理論の基礎：戦略とは、ナッシュ均衡とは 同質財のクールノー競争の分析
第 2 回	クールノー競争レクチャー 2	同質財のクールノー競争の均衡分析の拡張 企業数と競争の程度
第 3 回	ベルトラン競争レクチャー	同質財のベルトラン競争の均衡分析 クールノー競争とベルトラン競争の比較
第 4 回	寡占市場に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 5 回	寡占市場に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 6 回	中間試験	中間試験および解説
第 7 回	参入障壁レクチャー	参入障壁とはなにか 参入障壁のない状況：コンテストブル・マーケットの理論
第 8 回	参入阻止レクチャー	参入阻止とはなにか、現実の具体例 独占禁止法で規制される参入阻止行動とはどのようなものか コミットメントとはなにか、また参入阻止とどのような関係があるか
第 9 回	参入に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 10 回	参入に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 11 回	カルテルレクチャー	カルテルの具体的な摘発例 カルテルの経済モデルによる分析
第 12 回	カルテルに関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 13 回	合併の経済効果レクチャー	なぜ企業は合併するのか？ 合併が社会的厚生に与える影響
第 14 回	合併に関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 15 回	期末試験	第 14 回までのレクチャー部分を中心に習熟度を測ります
第 16 回	価格差別レクチャー 1	企業が用いる価格差別の手法
第 17 回	価格差別レクチャー 2	企業が用いる価格差別の手法（つづき） 価格差別が競争に与える影響
第 18 回	価格差別に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション

第 19 回	価格差別に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 20 回	ネットワーク外部性レクチャー	外部性とはなにか ネットワーク外部性とはなにか ネットワーク外部性がある市場の具体的な例と特徴的な企業戦略
第 21 回	ネットワーク外部性に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 22 回	ネットワーク外部性に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 23 回	中間試験	中間試験と解説
第 24 回	製品差別化レクチャー	製品差別化と市場支配力 立地モデルによる製品差別化の分析
第 25 回	製品差別化に関するテキストの輪読	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 26 回	垂直的取引制限レクチャー 1	垂直的な取引関係と垂直的取引制限の具体的な事例
第 27 回	垂直的取引制限レクチャー 2	垂直的な取引関係と垂直的取引制限の具体的な事例（つづき） なぜ企業は垂直的取引制限を用いるのか。垂直的統合との違い
第 28 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読 1	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 29 回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読 2	参加者による関連文献の報告、ディスカッション
第 30 回	期末試験	第 14 回までのレクチャー部分を中心に習熟度を測ります

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レクチャー部分については、中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。輪読部分については、予習をし、報告者はレジュメを用意、報告者以外は質問を準備し、授業中の活発な議論に役立ててください。各受講生には、年間 4 回程度のプレゼンテーションを求めます。

### 【テキスト（教科書）】

レクチャー部分は主に以下のテキストを使います。その都度該当部分を紹介します。必要に応じて各自の判断で参考にしてください。事前に購入する必要はありません。  
小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」有斐閣  
柳川隆・川浜昇編（2006）「競争の戦略と政策」有斐閣  
小田切宏之（2008）『競争政策論』日本評論社

### 【参考書】

輪読部分は以下の参考書から受講生のレベル、関心に応じて章を選びこちらで用意します。  
小田切宏之（2010）『企業経済学』東洋経済新報社  
岡田羊祐・林秀弥（2009）『独占禁止法の経済学』東京大学出版会  
Belleflamme, P. and M. Peitz（2010）Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge University Press  
Motta, M.（2004）Competition Policy, Cambridge University Press  
Tirole, J. (1988) The Theory of Industrial Organization, The MIT Press

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準で決めます。  
輪読時の報告 40 %  
輪読時の質問・討論への参加 30 %  
中間・期末試験の評価 30 %

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに合わせて、輪読テキストの選択やレクチャーの難易度を調整していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
産業組織論  
<研究テーマ>  
競争政策の経済分析  
<主要研究業績>  
Cato and Oki, Leaders and Competitors, 2012, Journal of Economics, 107, 3.

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年の日本経済は、バブル景気とその崩壊、失われた10年、世界金融危機といった大きな出来事を経験してきました。現在の日本経済は、いわゆるアベノミクスや量的緩和、マイナス金利政策の効果もあり、景気は緩やかな拡大基調にあります。とはいえ、今後も安定した経済成長の経路をたどることができると予想するのは楽観的すぎるでしょう。少子高齢化、巨大な政府債務といった短い期間では解決できない問題には、いまだ有効な手段がとれないままです。

この授業では、過去・現在・未来の日本経済を敷衍し、我々が経済社会情勢の変化に対しどのような対応を取りうるのかについて考えていきます。例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

**【到達目標】**

タームペーパーにより成績評価しますので、その作成を通じて日本経済の現状と課題を理解し、政策立案者や経営者の視点からの確かな提言ができるようになることを到達目標とします。

**【授業の進め方と方法】**

輪読とタームペーパーの中間報告を主とします。輪読は、各自担当を割り当て、内容を説明してもらいます。テキストの項に挙げた文献を対象とする予定です。春学期のテーマはマクロ経済と財政、秋学期のテーマは金融とします。

その上で、春学期と春学期それぞれ、関連するテーマについてタームペーパーを作成します。途中、1回以上中間報告をしてもらいます。受講希望者は、必ず初回授業に出席するか、担当教員に連絡してください（メールアドレスは、担当教員のウェブサイト参照）。

<http://www.rhasumi.net/>

**【授業計画】**

**通年**

回	テーマ	内容
01	イントロダクション	授業内容の説明、担当箇所の割り当てを行います。
02	戦後日本の経済成長	戦後日本の経済成長を概観します。
03	景気循環の姿とそのとらえかた	景気循環の姿とそのとらえかたについて議論します。
04	雇用の変動と日本型雇用慣行の行方	雇用の変動と日本型雇用慣行の行方について考えます。
05	産業構造の変化と日本型経営の行方	産業構造の変化と日本型経営の行方について考えます。
06	物価の変動とデフレ問題	物価の変動とデフレ問題について考えます。
07	貿易と国際収支の姿	貿易と国際収支の姿を概観します。
08	円レートの変動と日本経済	円レートの変動が日本経済に与える影響を考えます。
09	グローバル化の中の日本経済	グローバル化の中の日本経済を考えます。
10	財政をめぐる諸問題	財政をめぐる諸問題について考えます。
11	格差問題	格差問題について議論します。
12	少子高齢化と社会保障	少子高齢化と社会保障について考えます。
13	人口構造の変化	人口構造の変化が日本経済の未来にどう影響するかを議論します。
14	タームペーパーの中間報告（春学期）	学生にタームペーパー（春学期）の中間報告をしてもらいます。
15	総括（春学期）	春学期に学んできた内容を踏まえ、わが国経済が抱えるボトルネックを整理し、何が求められているのかを考えていきます。
16	質的・量的緩和の効果とリスク	質的・量的緩和の効果とリスクについて考えます。
17	異次元緩和が長期金利と資産価格に及ぼした影響	異次元緩和が長期金利と資産価格に及ぼした影響について議論します。
18	国債発行と緩和効果	国債発行と緩和効果について考えます。

19	金融緩和策の出口で発生するコスト	金融緩和策の出口で発生するコストについて考えます。
20	米国、英国、欧州のフォワード・ガイダンス	米国、英国、欧州のフォワード・ガイダンスについて議論します。
21	日本のフォワード・ガイダンス	日本のフォワード・ガイダンスについて議論します。
22	マクロ・プルーデンス政策	マクロ・プルーデンス政策について考えます。
23	米国の量的緩和と新興国のマネーフロー	米国の量的緩和と新興国のマネーフローについて考えます。
24	マイナス金利政策と長期停滞	マイナス金利政策と長期停滞について議論します。
25	金融機関から見たマイナス金利政策	金融機関から見たマイナス金利政策について考えます。
26	日本銀行のコストと財政務の健全性	マイナス金利によって日本銀行が負担するコストについて考えます。
27	長期停滞の罨	日本はデフレから抜け出せるのかについて議論します。
28	3次元Q QEはどこまで継続できるのか	量的緩和の限界について考えます。
29	タームペーパーの中間報告（秋学期）	学生にタームペーパー（秋学期）の中間報告をしてもらいます。
30	総括（秋学期）	これまでに学んできた内容を踏まえ、わが国経済が抱えるボトルネックを整理し、何が求められているのかを考えていきます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

輪読に向けた予習、レジュメの作成、タームペーパーの作成・中間報告準備など。

**【テキスト（教科書）】**

- 福田 慎一・照山 博司(著)『マクロ経済学・入門 第5版(有斐閣アルマ)』、有斐閣、2016年
- 小峰 隆夫・村田 啓子(著)『最新!日本経済入門(第5版)』、日本評論社、2016年
- 岩田 一政ほか(編)『人口回復 出生率 1.8 を実現する戦略シナリオ』、日本経済新聞出版社、2014年
- 横山 彰ほか(著)『現代財政学(有斐閣アルマ)』、有斐閣、2009年
- 岩田 一政・日本経済研究センター(編)『量的・質的金融緩和 政策の効果とリスクを検証する』、日本経済新聞出版社、2014年
- 岩田 一政ほか(著)『マイナス金利政策 3次元金融緩和の効果と限界』、日本経済新聞出版社、2016年

**【参考書】**

各種論文等を参考資料として紹介する予定です（授業支援システムに掲載予定）。

**【成績評価の方法と基準】**

- 以下の2つによって行います。
- ①授業内での報告内容、授業参加度合い（40%）
- ②春学期、秋学期の2回のタームペーパー（60%）

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当につき該当なし。

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>
- マクロ経済学、計量経済学（バイズ統計学）
- <研究テーマ>
- マクロ経済モデルによるシミュレーション分析、財政・社会保障、経済予測、中小企業金融論
- <主要研究業績>
- 蓮見亮・中田大悟「少子高齢化、ライフサイクルと公的年金財政」、『季刊社会保障研究』、第46巻、第3号、274-289頁、2010年
- Arito Ono, R. Hasumi, H. Hirata, Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan, *Journal of Banking & Finance* 42, 371-380, 2014.
- 蓮見亮「法人税減税の政策効果—小国開放経済型 DSGE モデルによるシミュレーション分析」、RIETI Discussion Paper Series 14-J-040, 2014年

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ベイズ統計学を射程に入れた初級から中級にかけての確率統計に関する基礎数理を学びます。初級から中級にかけてという意味は、受講生は学部で統計学の入門を学んでいることを想定した科目であるということです。

近年、統計ソフトの普及で容易に高度なデータ解析ができるようになりましたが、統計学の基礎知識なしの実証研究には危うさが伴います。統計プロパーの専門家を志向する者でなくとも、この程度の基礎数理は知っておくべき、というレベルの知識の習得を目指します。

## 【到達目標】

受講生は、微分積分と線形代数の知識を自学自習で補いながら、初級から中級にかけての確率統計に関する基礎数理を理解することが求められます。

統計ソフトの使い方の学習は予定していませんが、この科目を受講することによって、統計ソフトによるデータ解析をある程度自信をもって実践できるようになることを具体的な目的とします。

## 【授業の進め方と方法】

受講生の人数にもよりますが、テキストに沿った講義と演習（輪読）の双方を併用します。輪読で担当箇所が指定された場合は、徹底的な予習が必要となります。

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、受講生の予備知識の確認、テーマの確認とその位置づけ、使用教科書、について説明する。
第2回	確率入門 (1)	確率の歴史と確率の解釈、実験と事象、集合、確率の定義、について学ぶ。
第3回	確率入門 (2)	有限標本空間、順列と組合せによる確率計算、二項係数と多項係数、について学ぶ。
第4回	条件つき確率 (1)	条件つき確率の定義、独立事象、について学ぶ。
第5回	条件つき確率 (2)	ベイズの定理、マルコフ連鎖、について学ぶ。
第6回	確率変数とその分布 (1)	確率変数の定義、離散型と連続型の分布、分布関数、について学ぶ。
第7回	確率変数とその分布 (2)	二次元の確率分布、周辺分布、条件付分布、について学ぶ。
第8回	確率変数とその分布 (3)	多次元の確率分布、確率変数の関数とその分布、について学ぶ。
第9回	期待値 (1)	確率変数の期待値、期待値の特性、分散、について学ぶ。
第10回	期待値 (2)	積率と積率母関数、平均とメディアン、共分散と相関係数、について学ぶ。
第11回	期待値 (3)	条件付期待値、標本平均、について学ぶ。
第12回	基本分布 (1)	二項分布、超幾何分布、ポアソン分布、負の二項分布、について学ぶ。
第13回	基本分布 (2)	正規分布、中心極限定理、について学ぶ。
第14回	基本分布 (3)	ガンマ分布、ベータ分布、について学ぶ。
第15回	基本分布 (4)	多項分布、二次元正規分布、について学ぶ。
第16回	推定 (1)	統計的推定、事前分布と事後分布、共役事前分布、について学ぶ。
第17回	推定 (2)	ベイズ推定量、最尤推定量、(十分統計量)、について学ぶ。
第18回	サンプリング分布 (1)	カイ2乗分布、標本平均と標本分散の結合分布、t分布、信頼区間、について学ぶ。
第19回	サンプリング分布 (2)	正規分布からの標本のベイズ流分析、不偏推定量、フィッシャー情報量、について学ぶ。

第20回	仮説検定 (1)	仮説検定の問題、単純仮説の検定、一様最強力検定、について学ぶ。
第21回	仮説検定 (2)	両側対立仮説、t検定、二つの正規分布の平均の比較、について学ぶ。
第22回	仮説検定 (3)	F分布、ベイズ検定法、について学ぶ。
第23回	カテゴリデータとノンパラメトリック法 (1)	適合度の検定、分割表に関する検定、について学ぶ。
第24回	カテゴリデータとノンパラメトリック法 (2)	コルモゴロフ・スミルノフ検定、ロバスト検定、ロバスト推定、について学ぶ。
第25回	カテゴリデータとノンパラメトリック法 (3)	符号検定と順位検定について学ぶ。
第26回	線形モデル (1)	最小2乗法、回帰、について学ぶ。
第27回	線形モデル (2)	単回帰の統計的推論、について学ぶ。
第28回	線形モデル (3)	単回帰のベイズ流推論、重回帰、について学ぶ。
第29回	線形モデル (4)	分散分析について学ぶ。
第30回	回顧と展望	これまで学んだことの位置付けと更なる学習に向けての説明です。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの割り当てられた箇所（20頁～30頁）を授業で説明できるように準備すること。

復習：各回の授業終了後、速やかに学んだ箇所の再読して理解の再確認すること。

## 【テキスト（教科書）】

DeGroot & Schervish, *Probability and Statistics* (4th ed.), Pearson

## 【参考書】

予備知識の不足部分の補足用として例えば、  
矢野・浅野『理工系の基礎微分積分』、『理工系の基礎線形代数』 裳華房  
押川・坂口『基礎微分積分』、『基礎線形代数』 培風館  
統計の参考書として例えば、  
押川・坂口『基礎統計学』 培風館  
松本『確率・統計の基礎』 学術図書出版

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での発言から判断される理解度 50%）と期末レポート（50%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

微分積分や線形代数の使われ方を、可能な限りその都度指摘し、受講生にそれを投げかけて、予備知識の補充を具体的にアドバイスすることを意識的にを行います。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 統計学・経済学

<研究テーマ> 分配問題（不平等解析）、決定理論

<主要研究業績>

「不平等解析－ローレンツ順序－」『経営志林』第47巻（2011）

「不平等解析－ジニ係数と変動係数」『経営志林』第41巻（2005）

「集中曲線と弾力性計測法」『経済研究』第45巻（1994）

## 経営学演習

新倉 貴士

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の3点を目指す。

- ①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。
- ②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。
- ③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

### 【授業の進め方と方法】

上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
1	問題意識の明確化①	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
2	問題意識の明確化②	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	先行研究についての指導
5	先行研究の検討③	先行研究についての指導
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法についての指導
8	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
9	第1回中間報告	中間報告での指導
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	調査状況に基づき指導
12	調査実施状況の確認③	調査状況に基づき指導
13	調査実施状況の確認④	調査状況に基づき指導
14	調査実施状況の確認⑤	調査状況に基づき指導
15	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
16	調査実施状況の確認⑦	調査状況に基づき指導
17	調査実施状況の確認⑧	調査状況に基づき指導
18	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
19	調査結果の検討②	調査結果に基づき指導
20	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
21	第2回中間報告	中間報告での指導
22	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
23	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
24	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
25	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
26	修士論文執筆の指導⑤	修士論文執筆の指導
27	修士論文執筆の指導⑥	修士論文執筆の指導
28	修士論文執筆の指導⑦	修士論文執筆の指導
29	修士論文の最終確認①	修士論文執筆の最終指導
30	修士論文の最終確認②	修士論文執筆の最終指導

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房）。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文への取り組み姿勢ならびに修士論文内容における文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性などを基にして評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

着実に進められるように、進め方において体系立てた工夫を考えます。

### 【その他の重要事項】

マーケティング関連科目ならびに基礎的な統計的知識を学べる科目を履修しておくことが望ましい。

### 【担当教員の専門領域等】

<専門領域>

消費者行動論、マーケティング

<研究テーマ>

消費者情報処理の視点に基づく認知・態度・行動の関係

<主要研究業績>

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（単著、千倉書房、2005年）、『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（共著、有斐閣アルマ、2012年）

## 経営学演習

李 瑞雪

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、修士論文の作成を指導するために開講する授業です。履修者は昼間修士課程の2年生に限定されます。

### 【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①企業経営、経営戦略、ロジスティクス・マネジメント、サプライチェーンマネジメントの基本理論、基本概念を理解し、ロジスティクスやサプライチェーンに関わる修士論文を作成します。
- ②フィールド・リサーチとケース・スタディに関する基本的手法を応用して研究を進めます。
- ③修士論文のテーマに関わる日本語と英語の先行文献をレビューし、整理します。
- ④学術論文の基本的手法を習得し、それに基づいて修士論文を作成します。
- ⑤事象を観察し、関連情報を収集・分析し、本質を洞察する能力を養います。

### 【授業の進め方と方法】

授業は演習の形式をとります。最初は履修者の修士論文のテーマに関わる論文を輪読し討論します。夏季休暇期間を利用して、フィールド調査を行い、データを収集します。9月以降では履修者の研究報告を行い、データの整理・分析、参考文献の読解、アカデミックな文章表現など、論文作成の技法を学びながら、履修者の論文作成の進捗状況を踏まえて指導していきます。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業運営方法に関する説明。文献案内。スケジュール決定。
2~4	経営戦略に関わる文献輪読	経営戦略論の基本的理論や概念を理解します。
5~7	ロジスティクス戦略に関わる文献輪読	ロジスティクス戦略の基本的理論と概念を理解します。
8~10	サプライチェーンマネジメントに関わる文献輪読	サプライチェーンマネジメントの基本的理論と概念を理解します。
11~13	フィールドリサーチ、ケーススタディに関わる文献輪読・解説	フィールドリサーチ、ケーススタディの基本的手法を習得します。
14	修士論文のテーマに関わる先行研究レビュー	先行研究の整理状況を報告し、検討します。
15	修士論文のテーマに関わる先行研究レビュー、フィールド調査の設計	先行研究の整理状況を報告し、検討します。夏季休暇期間中のフィールド調査を設計し準備します。
16~18	フィールド調査の内容の検討	フィールド調査で収集したデータを整理し、分析します。
19~21	追加調査の実施	追加調査で不足するデータを収集し分析します。
22~23	学術論文の作法の習得、修士論文のフレームワークと構成の検討	学術論文の基本的要素を理解し、作法を習得します。修士論文の全体の枠組みと目次構成を決定します。
24~30	修士論文作成	章毎に内容を報告し、修正などのアドバイスを受けます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文のテーマに関連する文献を幅広く集め、貪欲に読んで整理してください。学術論文の作法を習得するために、修士論文のテーマに直接関わらない学術雑誌掲載論文も積極的に読むように心掛けてください。

### 【テキスト（教科書）】

1 回目の授業中に提示します。

### 【参考書】

1 回目の授業中に提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンかタブレットを授業に持ち込むことをお勧めします。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論  
<研究テーマ>新興国市場におけるロジスティクス戦略、中国物流産業の高度化など

- <主要研究業績>
- ①『中国物流産業論—高度化の軌跡とメカニズム—』白桃書房、2014年。
  - ②『日本企業物流と供給管理事例精選』中国財富出版社、2013年。
  - ③『ロジスティクス戦略論の再検討：新興国市場におけるロジスティクス戦略の理論枠組みに関する予備的考察』『経営志林』(ISSN 0287-0975) 第49巻第4号、pp.29-47。
  - ④『変わる中国変わらない中国』全日出版、2003。

## 経営学演習

西川 英彦

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

### 【授業の進め方と方法】

マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
1	リサーチプロポーザルの作成指導	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチプロポーザルの作成指導	同上
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	同上
5	先行研究の検討③	同上
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	同上
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	同上
12	調査実施状況の確認③	同上
13	調査実施状況の確認④	同上
14	調査実施状況の確認⑤	同上
15	調査実施状況の確認⑥	同上
16	調査実施状況の確認⑦	同上
17	調査実施状況の確認⑧	同上
18	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
19	調査結果の検討②	同上
20	中間報告の準備	中間報告準備の指導
21	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
22	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
23	修士論文執筆の指導②	同上
24	修士論文執筆の指導③	同上
25	修士論文執筆の指導④	同上
26	修士論文執筆の指導⑤	同上
27	修士論文執筆の指導⑥	同上
28	修士論文執筆の指導⑦	同上
29	修士論文の最終確認①	修士論文執筆の最終指導
30	修士論文の最終確認②	同上

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

### 【参考書】

指導教官からの指示に従うこと。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタルマーケティング

<研究テーマ>

ユーザー・イノベーションがもたらす市場効果

<主要研究業績>

著書に、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『1からの商品企画』（編著、碩学舎）、『1からの消費者行動』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。  
論文に、“User-Generated Versus Designer-Generated Products: A Performance Assessment at Muji,”（共著、*International Journal of Research in Marketing*, 30(2), Finalist, 2013 Best Paper Award of the International Journal of Research in Marketing）など。

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、修士論文作成のための研究指導を行う。論文作成に必要な先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討等の各段階に関して指導する。

**【到達目標】**

先行研究をレビューし、先行研究や理論をもとに仮説構築ができるようになる。

仮説を適切な方法で検証できるようになる。

最終的な到達目標は、修士論文の作成である。

**【授業の進め方と方法】**

先行研究のレビューを行い、論文のテーマを導出する。次に追加的な先行研究のレビューを行い、仮説を構築する。その後、仮説の検証方法を検討し、適切な方法で仮説の検証を行う。さらに検証結果の検討を行う。このような作業を行うことで最終的に修士論文を書き上げる。

**【授業計画】**

通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する
2	リサーチ・プロポーザルの作成（1）	修士論文のテーマに関して議論する
3	リサーチ・プロポーザルの作成（2）	リサーチ・プロポーザルを行う
4	先行研究のレビュー（1）	先行研究を調査する
5	先行研究のレビュー（2）	先行研究の調査結果を報告する
6	先行研究のレビュー（3）	先行研究について議論し、テーマを再検討する
7	先行研究のレビュー（4）	先行研究の追加的な調査をする
8	先行研究のレビュー（5）	修士論文のテーマを洗練化する
9	仮説構築（1）	先行研究のレビュー結果を整理する
10	仮説構築（2）	仮説構築に必要な理論的基盤を考える
11	仮説構築（3）	仮説構築のために、追加的な先行研究のレビューを行う
12	仮説構築（4）	仮説を構築する
13	調査方法の検討（1）	仮説検証に適合的な調査方法を議論する
14	調査方法の検討（2）	リサーチ・デザインを設計する
15	中間報告	これまでの進捗状況を報告する
16	調査の遂行（1）	調査状況を報告する
17	調査の遂行（2）	追加的な調査を行う
18	調査の遂行（3）	これまでの調査を整理して、追加的な調査のデザインを検討する
19	調査の遂行（4）	追加的な調査を行う
20	調査の遂行（5）	これまでの調査を整理する
21	調査結果の検討（1）	調査結果を報告する
22	調査結果の検討（2）	調査結果を検討する
23	調査結果の検討（3）	理論的及び実務的インプリケーションを考える
24	修士論文作成（1）	これまでの研究を整理し、修士論文の作成を始める
25	修士論文作成（2）	追加的な先行研究のレビューを行う
26	修士論文作成（3）	追加的な調査を行う
27	修士論文作成（4）	追加的な調査を踏まえて、検証結果を再検討する
28	修士論文作成（5）	結果の再検討を踏まえて、論文を洗練化する

- 29 修士論文の最終チェック 継続的に論文の修正を行う  
ク（1）
- 30 修士論文の最終チェック 修士論文の最終的なチェックを行う  
ク（2）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- 1～3 回 リサーチ・プロポーザルを作成する
- 4～8 回 先行研究の徹底的なレビューを行う
- 9～12 回 仮説を構築する
- 13～14 回 仮説の検証に適した方法を選択し、リサーチ・デザインを設計する
- 15 回 中間報告の準備を行う
- 16～20 回 仮説検証のための調査を遂行する
- 21～23 回 調査結果を分析し、場合によっては追加調査を行う
- 24～28 回 修士論文を作成する
- 29～30 回 修士論文を完成する

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

- Bailey, K.D. 1994. *Methods of Social Research* (4th ed.). Free Press: NY.
- Yin, R.K. 1994. *Case Study Research: Design and Methods* (2nd ed.). Sage Publications: CA.

**【成績評価の方法と基準】**

配分: 演習へのコントリビューション（100 %）  
演習へのコントリビューションには、研究の遂行状況、遂行状況の報告、ディスカッション等を含む。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート対象外につき該当なし

**【担当教員の専門分野等】**

- <専門領域>  
国際経営戦略
- <研究テーマ>  
海外子会社の経営戦略、新興経済での多国籍企業の経営戦略
- <主要研究業績>

- ① Similarity to successful peers and the implications for subsidiary performance. *Asian Business & Management*, 2016, 15(2): 110-136.
- ② The effect of localization on subsidiary performance in Japanese multinational corporations. *International Journal of Human Resource Management*, 2014, 25 (14): 1995-2012.
- ③ Institutional distance, host country and international business experience, and the use of parent country nationals. *Human Resource Management Journal*, 2013, 23(1): 52-71 (with Paik, Y.).

## 経営学演習

洞口 治夫

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、昼間の修士課程2年生に在籍して洞口を指導教員とする学生に、修士論文の作成を指導するために開講されます。少人数の指導によって修士論文を作成していきます。

### 【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①企業経営を理論的な観点から分析し、国際経営にかかわる修士論文の作成ができる。
- ②イノベーションを引き起こす企業能力の所在を理論的に理解できる。
- ③経営戦略に関する基本的な理論を理解できる。
- ④経営学に関する基本的な英文を正確に理解でき、的確に報告する能力を身につける。
- ⑤1万字程度の修士論文の作成を通じて、論理的な思考能力と的確な日本語文章力を身につける。
- ⑥数学的な理解度に応じて、統計的な分析方法を応用できる。
- ⑦インタビュー調査を通じて、コミュニケーション能力と論理的な思考能力を応用できる。

### 【授業の進め方と方法】

授業は演習の形式をとり、修士論文の作成に必要な論文を輪読します。一年生の春休みや二年生の夏休みなどの期間を利用した工場見学や企業訪問を通じて、インタビュー調査によるデータ収集を学びます。授業では参加者の研究報告を行い、データの整理、参考文献の読解、アカデミックな文章表現など、論文作成の技法を学びます。授業では、受講生が研究の進捗状況についてレジュメを作成し報告を行います。この授業の参加者は、修士課程2年に在籍し、洞口の指導を許可された者を対象としています。

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業運営方法に関する説明。レジュメ作成の担当決定。
2	修士課程1年生の間に読んだ論文の紹介とまとめ	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
3	修士課程1年生の間に読んだ論文のサーベイ作成と添削	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
4	修士論文作成のための研究計画の立案とディスカッション	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
5	学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。経営戦略論・経営組織論を知識管理の文脈から捉えなおす。
6	学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
7	学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
8	学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
9	過去に提出された修士論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
10	過去に提出された修士論文の輪読。	参加学生によるレジュメ作成と報告。学生による事例の報告。
11	過去に提出された修士論文の輪読。	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
12	修士論文の研究進捗状況報告	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
13	リサーチエッセイの文章化とその添削	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
14	学術雑誌『国際ビジネス研究』に掲載された論文の輪読。	フィールド調査についての理論的アプローチについて検討する。
15	前期のまとめ	修士論文作成の進捗状況報告と夏休み期間中の調査準備。
16	夏休み期間中の研究進捗報告	論文で利用する概念、用語、論理構造を検討する。
17	学術雑誌『アジア経済』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
18	学術雑誌『アジア経済』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
19	学術雑誌『アジア経済』掲載論文の輪読	左記文献の概念、用語、論理構造を検討する。
20	修士論文の進捗報告。	文献サーベイ、調査結果の確認。図表作成の適切さの検討。
21	学術雑誌『組織科学』掲載論文の検討。	経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。

- 22 学術雑誌『組織科学』掲載論文の検討。 経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。
- 23 学術雑誌『組織科学』掲載論文の検討。 経営組織研究を掲載する学術論文の批判的検討を行う。
- 24 修士論文の進捗報告。 学術論文としての批判的検討を行う。
- 25 Journal of International Business Studies 掲載論文の検討。 国際ビジネスに関する英語学術論文の批判的検討を行う。
- 26 Journal of International Business Studies 掲載論文の検討。 国際ビジネスに関する英語学術論文の批判的検討を行う。
- 27 修士論文の進捗報告。 日本語文章作法、論理構成、仮説・命題・結論の相互関係の検討。
- 28 Strategic Management Journal 掲載論文の検討。 経営戦略に関する英語学術論文の批判的検討を行う。
- 29 Strategic Management Journal 掲載論文の検討。 経営戦略に関する英語学術論文の批判的検討を行う。
- 30 最終試験。 最終レポートの提出。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①洞口治夫編著『ファカルティディベロプメント』第11章、白桃書房、2008年、pp.257-271を読了しておくこと。
- ②授業で与えられた課題について、報告者は当該部分を熟読し、報告レジュメを作成すること。他の参加者は質問点を考えること。適宜、参考文献を使い、企業経営の理論に関する理解を深めていくこと。
- ③新聞、雑誌、ウェブサイトなどから、独自の事例を探し、紹介すること。また、その事例を調査対象として捉えた場合にはどのような調査方法があるかを検討すること。
- ④修士論文の作成状況は適宜チェックし、自ら何回も添削を行うこと。
- ⑤最終レポートは、修士論文として提出できる水準のものを準備すること。

### 【テキスト（教科書）】

洞口治夫編著『ファカルティディベロプメント』第11章、白桃書房、2008年。  
 洞口治夫『集合知の経営—日本企業の知識管理戦略—』文真堂、2009年。  
 それ以外に必要な文献については、各自、法政大学図書館オンラインデータベースよりダウンロードすること。

### 【参考書】

- ①小池和男・洞口治夫編著『経営学のフィールド・リサーチ—現場の達人—の実践的調査手法—』日本経済新聞社、2006年。
- ②洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992年。
- ③洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002年。
- ④洞口治夫・行本勢基『入門 経営学—初めて学ぶ人のために—』同友館、2008年。
- ⑤藤村博之・洞口治夫編『現代経営学入門』ミネルヴァ書房、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

報告（60点）、議論への参加（20点）、最終レポートと筆記試験（20点）。報告のためのレジュメ作成は、何回かのやりなおしが課される場合があります。やりなおしのプロセスで投入した努力を含めて採点します。毎回の出席が要求されます。担当回における報告内容とそれに関する質疑応答や議論から理解度を判定します。毎回の予習・準備が十分行えていることが不可欠です。筆記試験とともに最終レポートを提出します。筆記試験は、重要な概念の簡潔な説明を要求します。レポートの課題は講義の中で説明します。

### 【学生の意見等からの気づき】

日本語論文のための文章作成は、添削を受けてはじめて上達します。添削を受けるためには、その下地となる日本語の文章が作成できていなければなりません。日本語の文章を作成するには、日ごろから良い日本語を読むことが大切です。ただし、小説、新聞、雑誌などに用いられている日本語には、それぞれ独自の文体があり、学術論文で用いられる日本語の文体とは異なります。日本語の学術論文を読まなければ、日本語の修士論文を書くことはできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

電子辞書およびスマホ検索は授業内利用可です。また、授業内での説明を補完し、必要なデータをチェックするためのパソコンによるインターネット利用も可です。授業外での連絡のためにも必要となります。

### 【その他の重要事項】

2017年度春学期、火曜日6時限目・7時限目には、国際経営論をテーマとして夜間大学院修士課程の授業を行います。修士論文の指導教授として洞口を指名する修士課程学生は、この授業に参加することが望ましい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際経営論  
 <研究テーマ>国際経営論、海外直接投資論、イノベーション政策  
 <主要研究業績>

- ①<単著> Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
- ②<論文> "Decoding symbiotic endogeneity: The stochastic input-output analysis of university-business-government alliances," Triple Helix: A Journal of University-Industry-Government Innovation and Entrepreneurship, vol.3, no.1(13), 2016.
- ③<査読付き学会プロシーディングス> "Commensalism: Formation of Innovation Clusters through University-Business-Government Alliances," Academy of Management Proceedings, 2015.

## 経営学演習

### 近能 善範

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文作成のための研究指導を行います。履修者は、昼間修士課程の2年生に限定されます。

#### 【到達目標】

本演習では、論文テーマの導出、先行研究のレビュー、仮説の構築、仮説の検証方法の検討、調査およびデータの収集、仮説の検証、検証結果の検討、文章化、といった一連のステップを踏み、最終的に修士論文を書き上げることができるよう、指導を行います。

また、その過程を通じて、論文作成に必要とされる方法論や技法について、実践を通じて学んでいただきます。

#### 【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で、修士論文に向けての報告と、関連するディスカッションを繰り返し行っていきます。

#### 【授業計画】

##### 通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス
第2回	問題意識の明確化①	論文テーマの元となる問題意識を固める。
第3回	問題意識の明確化②	同上
第4回	先行研究の検討①	先行研究をレビューし、論文テーマに関連し、何がどこまで明らかにされているのかを検討する。
第5回	先行研究の検討②	同上
第6回	先行研究の検討③	同上
第7回	先行研究の検討④	同上
第8回	先行研究の検討⑤	同上
第9回	仮説の検討①	先行研究をレビューした結果を踏まえて、論文テーマに関連し、どのような仮説が立てられるのか、それはなぜなのかについて検討する。
第10回	仮説の検討②	同上
第11回	仮説の検討③	同上
第12回	研究方法・調査方法の検討①	仮説を検証するにあたって適切な方法を検討するとともに、リサーチ・デザインを設計し、小規模なプレ調査を行う。
第13回	研究方法・調査方法の検討②	同上
第14回	研究方法・調査方法の検討③	同上
第15回	中間報告①	これまでの進捗状況を報告し、夏期休業中にやっておくべき内容について確認する。
第16回	中間報告②	夏期休業中の成果を中心に、これまでの進捗状況を報告する。
第17回	調査の遂行①	調査実施状況の確認を行い、必要な助言や指導を行う。
第18回	調査の遂行②	同上
第19回	調査の遂行③	同上
第20回	調査の遂行④	同上
第21回	調査結果の分析・検討①	調査の分析結果の確認を行い、必要な助言や指導を行う。
第22回	調査結果の分析・検討②	同上
第23回	調査結果の分析・検討③	同上
第24回	修士論文作成①	これまでの成果を整理し、修士論文の作成を進める。作成状況を確認し、必要な助言や指導を行う。
第25回	修士論文作成②	同上
第26回	修士論文作成③	同上
第27回	修士論文作成④	同上
第28回	修士論文作成⑤	同上
第29回	修士論文の最終確認①	修士論文の最終的なチェックを行い、必要な加筆・修正を施す。
第30回	修士論文の最終確認②	同上

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010年。

#### 【参考書】

特になし。

必要に応じて、適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

提出された修士論文の完成度で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>

イノベーションと企業間関係

<主要業績（テキスト）>

『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著）、新世社、2010年。

<主要研究業績（1）>

“Enhancement of the advanced R&D cooperation between automakers and suppliers in the Japanese automobile industry,” *Annals of Business Administrative Science*, Vol.6, pp. 15-34, 2008.

<主要研究業績（2）>

「日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化」、『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。